

# イベント上限1万人撤廃

## 来月から 収容50%制限は残る

政府は28日、新型コロナウイルス感染症対策分科会を持ち回りで開き、27都道府県で続けている大規模イベントの人数制限について、1万人の上限を11月1日から解除することを決めた。収容人数に応じて、「上限5千人」または「収容定員50%以内」のいずれが多い方が、全国で適用されることになる。

▼3面―主催者側は  
対策分科会で専門家に諮り了承された。新規感染者数が全国で減少傾向にあり病床逼迫も改善されてい

ることから、分科会も現状で解除は妥当と判断した。コンサートやスポーツなどの大型イベントをめぐっては、9月末に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置を解除した27都道府県を対象に、「上限5千人」または「収容定員50%以内」かつ「1カ月程度」の経過措置が取られてきた。

今回の見直しに伴い、11月1日からは、「上限5千人」または「収容定員50%以内」の制限のみが適用される。大声での歓声などに伴うイベントは、収容の人数に関わらず「収容定員50%以内」の制限が加わる。

例えば定員5万人の場合、声援など大声を伴うか伴わないかに関わらず、これまでの1万人から2万5千人まで入場できるようになる。定員が8千人の場合、大声を伴うものは「収容定員50%以内」の制限が適用されて4千人、大声を伴わない場合は5千人が上限となる。

### 緩和されるイベント参加人数の概要

対象	10月まで	11月以降																
	27都道府県(※)	全国																
制限の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>声援など「大声あり」のイベントは「収容定員の50%以内」</li> <li>「5000人」または「収容定員50%以内」の多い方</li> </ul> ただし「上限10000人」	「上限10000人」は撤廃																
	緩和の例	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>収容定員</th> <th>上限</th> <th>上限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大声ありなし</td> <td>50000人→</td> <td>10000人</td> <td>25000人</td> </tr> <tr> <td>大声あり</td> <td>8000人→</td> <td>4000人</td> <td>4000人</td> </tr> <tr> <td>大声なし</td> <td>8000人→</td> <td>5000人</td> <td>5000人</td> </tr> </tbody> </table>		収容定員	上限	上限	大声ありなし	50000人→	10000人	25000人	大声あり	8000人→	4000人	4000人	大声なし	8000人→	5000人	5000人
	収容定員	上限	上限															
大声ありなし	50000人→	10000人	25000人															
大声あり	8000人→	4000人	4000人															
大声なし	8000人→	5000人	5000人															

(※) 北海道、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、広島、福岡、沖縄、宮城、福島、石川、岡山、香川、熊本、宮崎、鹿児島

染症学)は「これだけ感染者数が減っている。みんな用心して行動しているし、このルールで十分だろう」との考えを示した。ただし、イベントの終了後に、飲食店で大人数を騒ぐような事態にならないように注

意が必要と指摘。また、感染が再び拡大した場合に、再び人数制限をするなどの対応を早めにとることが重要とした。

一部自治体では、今月からワクチン接種2回や検査による陰性証明を使った

「ワクチン・検査パッケージ」の実証実験を実施している。政府は、実証実験の結果を検証した上で、収容定員100%でのイベント開催などに向けた検討を行っている。政府は、実証実験の結果を検証した上で、収容定員100%でのイベント開催などに向けた検討を行っている。磯崎仁彦官房副長官は28日の記者会見で「ワクチン・検査パッケージ」の技術実証を行っている。その結果も踏まえて制限内容の見直しを検討していく」と述べた。

(坂本純也、枝松佑樹)